

令和 7 年度第 1 回「こうとう未来ミーティング」実施結果

テ ー マ : 防災対策

開 催 日 : 令和 7 年 5 月 29 日(木曜日)

会 場 : 江東区防災センター 災害対策本部室

参加人数 : 19 名(内、オンライン参加 1 名)

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・若者の防災意識が十分でない。ハザードマップも知られていないため、地域での意識啓発を進めるべき。
- ・衛生面などの観点から、小さい子ども連れの家庭が一般的な避難所では過ごしにくい。子ども専用のスペースの確保が必要である。
- ・防災士資格を持っても防災士同士のつながりがない。もっとつながりを積極的につけていくべき。
- ・転入者が地域住民とつながりにくい状況である。住民同士で助け合っていくためには、つながりが必要である。

【グループ 2】

- ・高層マンションでの訓練で全員が参加することは非現実的である。フロアごとに訓練を行うのがいいのではないか。
- ・訓練を継続的に実施していくことが重要である。そこでコミュニケーションを増やしていくことができるのではないか。
- ・マンションに住んでいる高齢者や外国人、在宅避難をすることができない要配慮者を受け入れるような避難所があるといい。
- ・避難所運営を被災者任せにしないために、外部（他地域の専門職の方など）からの支援体制が必要である。
- ・地域でのコミュニケーションが増えるため、地域のイベントと防災を組み合わせた活動をしてほしい。

【グループ 3】

- ・介護が必要な人、外国人、子どもなど支援が必要な人への避難の仕方や在宅避難の指導が足りていない。
- ・区内の学校で働いていた経験から、子どもたちにもっと防災訓練を行う必要がある。
- ・メンバー4人の中でも防災への関心や経験がバラバラではあるが、その声を区に、どうやって届けるかが課題である。
- ・コミュニティの場がもっと増えるといい。
- ・防災は、ソフト面において、お互いを思いやったり、手を差し伸べて助け合ったりすることが大事である。「つながり」が重要。
- ・配慮を必要とする方は、備蓄しているものがあっても自分で持ち出せない人もいないのか。
- ・子どもたちが災害時に慣れない凸凹の道でどうやって避難できるかが心配である。
- ・連絡体制のところで、自立できる人が自立できないと、周りの人を助けにくくなる。
- ・区の職員も災害時は大変だと思うので、自分たちが助ける立場になるのではないのか。

【グループ 4】

- ・戸建とマンションでは避難のやり方が違うため、それぞれにあった準備が大切である。
- ・地域によって防災の進み具合に差があるため、お互いに情報を共有して助け合えるようにしたい。
- ・行政だけでなく、警察の方とも協力し、避難のルール・マニュアルを設けると良い。
- ・各学校に設置してある備蓄品の入った防災倉庫は地面に直置きになっているため、水害が発生した場合どうするのか。3階の空き教室を使うなど早急に対策が必要である。
- ・避難所の運営に関しては、中高生が大きな力になる。学校教育の中で防災教育について積極的にやっていただき、今後中高生が活躍できる場を増やしてほしい。